

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

仁淀川町観光活性化プロジェクト

2 地域再生計画の作成主体の名称

高知県吾川郡仁淀川町

3 地域再生計画の区域

高知県吾川郡仁淀川町の全域

4 地域再生計画の目標

4-1 地域の現状

【地理的及び自然的特性】

本町は、高知県の北西部に位置し、高知市からは約 40 km、車で約 1 時間の距離となっている。

広域的にみると、高知市と松山市の間に位置し、両市を結ぶ国道 33 号や国道 439 号が交差する地域であり、北に四国山地、東西に仁淀川が横断する美しい自然に恵まれている。本町を流れる仁淀川は、愛媛県の久万高原町に源を発し、長者川、土居川等の数多くの支流を集めながら太平洋へと注ぎ込んでいる。

地形は標高約 100m から 1,800m であり、山間部を形成しており、集落は川沿いまたは山麓に点在している。本町は標高差が大きく、平均気温は山岳部が 15℃前後で、冬季には積雪もみられる。また、梅雨時の雨が多いこと、夏から秋にかけて台風の影響によるまとまった雨が多いこと等から、年間雨量は多いところで、2,500mm に達する等、比較的温暖多雨な地域である。

【人口】

本町の人口は、1947 年に 26,124 人のピークを記録したあと人口が減少し、2020 年には 4,827 人と、ピーク時のほぼ 5 分の 1 となっている。住民基本台帳によると 2025 年 4 月現在では 4,388 人とさらに減少しており、本町独自の推計では、2060 年に 2,226 人となる見込みである。

年齢3区分別にみると、年少人口（14歳以下）は1980年には老年人口（65歳以上）を下回っており、1995年には1,000人を切り、2020年には347人となった。年少人口比率は17.0%から7.2%と約10ポイント低下している。

生産年齢人口（15～64歳）は、1980年以降一貫して減少し、2020年には1,790人と、1980年比で75.2%減少している。総人口に占める割合（生産年齢人口比率）も1980年の61.8%から2020年の37.1%へと40年間で約25ポイント低下した。

年少人口と生産年齢人口が一貫して減少傾向にある一方、老年人口は2000年までは増加傾向にあった。これ以降は減少傾向にあるものの、2005年には生産年齢人口を上回り、2020年には2,690人と、同年の生産年齢人口の約1.5倍となっている。老年人口比率（高齢化率）は55.4%と、町民の2人に1人が高齢者の状況となっている。

自然動態についてみると、死亡数が出生数を上回る自然減の状態が続いており、2024年には出生数18人、死亡数137人と▲119人の自然減となっている。

社会動態についてみると、転出数が転入数を上回る社会減の状態が続いており、2024年には転入数112人、転出数187人と▲75人の社会減となっている。

【観光】

本町には平成30年度には10万人を超える観光客が訪れていたが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、令和2年度・3年度に本町を訪れた観光客は9万人を下回っていたが、令和6年度では9.5万人と回復傾向にある。

本町の観光資源としては、安居溪谷、中津溪谷、岩屋川溪谷、鳥形山森林植物公園、大引割・小引割、ひょうたん桜等の自然系観光資源、池川神楽、安居神楽、名野川磐門神楽、秋葉祭り等の文化系観光資源、そしてふれあい公園オートキャンプ場、夢の森公園キャンプ場、星ヶ窪キャンプ場、大渡ダム公園等の観光レクリエーション施設等がある。しかし、各観光地の駐車場不足や、中津溪谷遊歩道の老朽化、安居溪谷のバンガローの老朽化、観光案内板の不足等、整備内容は十分とはいえない状況にある。

そのため、整備が必要な施設等については優先順位をつけ、その対策に取り組んでいる。また、本町や本町観光協会では、住民と行政が一体となり、自然観察、体験参加型の観光体系の創設に努めている。具体的には、山・川での自然体験、歴史文化や暮らし体験等を旅行商品としてプログラム化し、本町ならではの体験型観光

コンテンツの情報発信と誘客の促進を通して本町の滞在期間の拡充に努め、観光関連の活性化に取り組んでいる。

4-2 地域の課題

仁淀川町は「仁淀ブルー」をはじめとする全国的に注目される観光資源を有しており、現時点では、来訪者数は一定程度確保されているが、人口減少や高齢化により、観光産業の人材確保や事業承継者の減少が課題となっている。また駐車場不足や遊歩道・宿泊施設の老朽化、観光案内板の不足等、観光地の施設整備が十分でないため、観光地の魅力が低減する恐れがある。地域の課題が解決されなければ観光客が減少し、ひいては地域経済の衰退につながる恐れがある。

4-3 目標

地域の課題を解決するため、観光施設を整備することで観光地の魅力を向上させるとともに、観光情報の発信を積極的に行うことで、「訪れてみたい町」「住んでみたい町」を目指し、観光産業の活性化や移住・交流の促進を図る。

【数値目標】

5-2の①に掲げる事業	K P I	現状値 (計画開始 時点)	目標値 (2030年度)	達成に寄与する 地方版総合戦略 の基本目標
仁淀ブルー観光事業	観光客入り込み客数	87,202人	106,500人	基本目標4

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2のとおり。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

- まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する特例（内閣府）：【A2007】

① 事業の名称

仁淀ブルー観光事業

ア 観光施設整備事業

イ 観光客誘致事業

② 事業の内容

ア 観光施設整備事業

みどり豊かな森林や仁淀ブルーと称される清流等本町を代表する観光地の施設を整備する事業

【具体的な事業】

遊歩道の整備等

イ 観光客誘致事業

新規観光客やリピーターの確保を目指すため、本町や本町観光協会等からの情報発信をより充実させる事業

【具体的な事業】

ホームページの充実やSNSでの情報発信等

③ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

4の【数値目標】に同じ。

④ 寄附の金額の目安

10,000 千円（2025 年度～2030 年度累計）

⑤ 事業の評価の方法（PDCAサイクル）

毎年度5～6月頃に「仁淀川町PDCA検証委員会」による効果検証を行い、翌年度以降の取組方針を決定する。検証後速やかに本町公式Webサイトで公表する。

⑥ 事業実施期間

地域再生計画の認定の日から2031年3月31日まで

6 計画期間

地域再生計画の認定の日から2031年3月31日まで